

メッセージ2

このメッセージでは、キリストのすばらしさと豊かさが(所是)4つの側面から語られており、それが神の福音の全体的な絵図となっていることを示しています。これらの4つの面は、神の全体的な救いの過程を示す4つのステップ(キーワード)と見なすことができます。これは罪人のためだけでなく、追い求める聖徒たちのためでもあります。

第一に、『いやし(healing)』はわたしたちの『信じる』と『触れること』に関係しています。

第二に、『牧養(shepherding)』はわたしたちの『経験』と『享受』に関係しています。

第三に、『安息(resting)』はわたしたちの『来ること』と『負うこと』に関係しています。第四に、『成長(growing)』はわたしたちの『状態』と『供給』に関係しています。

神の満ち満ちた救い、福音		
キリストの各面	救いの完成の過程	経験、適用のキーワード
① その行為が天的に支配されている(彼の衣の房)方としてのキリスト ——マタイ9:20-22	いやす healing	信じる、触れる believe、touch
② わたしたちの牧者としてのキリスト ——マタイ9:30	牧養する shepherding	経験、享受する experience、enjoy
③ わたしたちの安息としてのキリスト ——マタイ11:28-30	安息する resting	来て、(くびきを)負う、取る come、take
④ 種まく者としてのキリスト、まかれた種としてのキリスト ——マタイ13:3、18-23	成長する growing	状態と供給 condition、supply

キリストは①その行為が天的に支配されている方、 ②わたしたちの牧者、③わたしたちの安息、④種まく者である		
	キリストの各面	要点
I	その行為が天的に支配されている(彼の衣の房)方としてのキリスト マタイ9:20-22	A 衣の房の表徴(衣・義なる行為、房・天的な支配)
		B 衣は、人性の美德の完全さを表徴します
		C その人性の美德にはいやす力があります
		D 天的に支配されている行為から、いやす力となる美德が出て来ます
		E 衣に触れるとは、主の人性の中にある主ご自身に触れることでした
		F 神は触れることのできるものとなりました
		G 主に触れた者は受けることができます
II	わたしたちの牧者としてのキリスト マタイ9:30	A 第一段階:緑の牧場として、憩いの水辺としてのその霊としてのキリストを享受する
		B 第二段階:義の途で復興し、造り変えられる
		C 第三段階:死の影の谷を歩いている時、復活した、霊なるキリストの臨在を経験する
		D 第四段階:わたしたちにキリストを更に深く、更に高く享受させます
		E 第五段階:エホバの家で生涯、神聖な恵と慈愛を享受します
III	わたしたちの安息としてのキリスト マタイ11:28-30	A 安息を得るようにとの召し——安息が与えられる
		B 安息を得る道(方法)——主のくびきを負うことを学ぶ 労苦し重荷を負っている者/安息/わたし(主)から学ぶ/魂に安息を見いだす/くびきは負いやすく、荷は軽い
IV	種まく者としてのキリスト、まかれた種としてのキリスト マタイ13:3、18-23	A 「キリストがご自身を命の種として人の中へとまく」というこのビジョンは主の回復の心臓部であり、主の心の願いと関係がある
		B 神がわたしたちの命となって、
		C その命をもったわたしたち信者は、神の耕された地であり、
		D わたしたちの内側の神聖な種が成長することが建造です
		E 種まく者の例えば、三一の神が人の中へと入り、彼を要素として、材料としての人からのものをもって、建造の働きを行なうことを例証しています

キリストは(Ⅰ)その行為が天的に支配されている方、(Ⅱ)わたしたちの牧者、
(Ⅲ)わたしたちの安息、(Ⅳ)種まく者である

聖書：マタイ 9:20-22, 36, 11:28-30, 13:3, 18-23

その行為が天的に支配されている(彼の衣の房)方としてのキリストのいやしを、信じ、触れる

I. キリストは、その行為が天的に支配されている(彼の衣の房)方として啓示されています——マタイ 9:20-22：

***衣の房の表徴(衣・義なる行為、房・天的な支配を表徴します)**

A. キリストの衣は彼の義なる行為を表徴し、房は天的な支配を表徴します。「イスラエルの子たちに語って、彼らが代々にわたって衣のすそに房を作るよう、またそのすその房に青いひもを付けるように告げなさい。それはあなたがたのための房であって、あなたがたがそれを見るとき、エホバのすべての命令を思い起こしてそれを行なうためであり、……あなたがたの神に対して聖なるものとな[るためである]」——民 15:38-40：

1. ひもは縛ることを表徴し、青は天的であることを表徴します。
2. ですから、青いひもは、神の子供たちとして、わたしたちの行為と振る舞いが美しくあるべきであり、天的な統治と制限と規制との支配、管理、拘束の下にあるべきであることを表徴します。

***衣は、人性の美徳の完全さを表徴します**

B. 衣は人の振る舞いにおける美徳を表徴します。主の衣は、彼の人性における彼の完全な振る舞い、すなわち、彼の人性の美徳の完全さを表徴します。

***主イエスの人性の美徳には、いやす力がありました。**

C. 主イエスの人性の美徳には、いやす力がありました。ですから、病んでいる女が彼の衣の房に触れたとき、彼の美徳の力が彼女へと出て行き、彼女はいやされました。

***そのいやす力となる美徳は、天的に支配されている行為から出て来ます**

D. キリストの天的に支配されている行為から、いやす力となる美徳が出て来ます——マタイ 14:36。

***主の衣に触れることは、主の人性の中にある主ご自身に触れることでした。**

E. 主の衣に触れることは、実は主の人性の中の主に触れることでした。主の人性の中に神が具体化されていました(コロサイ 2:9)。そのように触れることによって、彼の神聖な力が、彼の人性の完全さを通して、彼に触れた者の中へと注入され、それは彼女のいやしとなりました(ルカ 8:45-48, ヘブル 12:2 前半)。

***神は、救いと享受のために、触れることのできるものとなりました。**

F. 近づきたい光の中に住む神が、奴隷・救い主の中で、彼の人性を通して、彼女の救いと享受のために、触れることのできるものとなりました。

***主に押し迫るものは受けませんが、主に触れた者は受けました。**

G. 押し迫る群衆は奴隷・救い主から何も受けませんでした、彼に触れた者は受けました(参照、詩歌 412 番の 2 節と折り返し)。

わたしたちの牧者としてのキリストの五つの段階における牧養を経験し享受する

II. 主イエスはわたしたちの牧者であり、わたしたちは彼の羊です——マタイ 9:36, イザヤ 40:11, 53:6, エゼキエル 34:1-5, 11-15：

***緑の牧場と水辺**

A. 彼はわたしたちを牧養する初期の段階において、わたしたちに緑の牧場としてのキリストと憩いの水辺としてのその霊を享受させます——詩 23:1-2, I テモテ 1:4, ピリピ 1:19 後半, ヨハネ 21:15, I テサロニケ 2:7, I コリント 12:13 後半。

***義の径**

B. 彼はわたしたちを牧養する第二段階において、わたしたちを義の途で復興し、造り変えます——詩 23:3, ローマ 12:2, ヨハネ 7:38, ローマ 8:4。

***死の影の谷**

C. 彼はわたしたちを牧養する第三段階において、わたしたちが死の影の谷を歩いている時、わたしたちに復活した霊なるキリストの臨在を経験させます——詩 23:4, II テモテ 4:22, II コリント 12:7-10。

***敵の前(戦場)**

D. 彼はわたしたちを牧養する第四段階において、わたしたちに復活したキリストをさらに深くさらに高く享受させます——詩 23:5：

1. 主はわたしたちの前にわたしたちの敵の前で、宴席を設けます——5節前半。参照、サムエル下 4:4. 9:7, 13. 創 14:18-20. ネヘミヤ 4:17。
2. 主はわたしたちの頭に油を塗り、わたしたちの杯は満ちあふれています——詩 23:5 後半。ヘブル 1:9. I コリント 10:16 前半, 21。
3. 詩篇第 23 篇 5 節には、三一の神がおられます。御子は宴席であり、その霊は塗り油であり、御父は祝福の源です。

*エホバの家(宮)

E. 彼はわたしたちを牧養する第五段階において、わたしたちにエホバの家で神聖な良きものと慈愛を生涯にわたって享受させます——詩 23:6 :

1. 霊なるキリストの有機的な牧養の下で、わたしたちの命の日の限り、良きものと慈愛がわたしたちを追いかけてきます。わたしたちは日々いつまでもエホバの家に住みます——6 節 :
 - a. 「良きもの」はキリストの恵みを指しており、「慈愛」は御父の愛を指しており、「追いかけて来」ることはその霊の交わりを暗示しています。こうして、御子の恵み、御父の愛、その霊の交わりがわたしたちと共にあります——II コリント 13:14。
 - b. 手順を経て究極的に完成された三一の神に対する享受は、わたしたちを神の家（キリスト、召会、わたしたちの霊、新エルサレム——ヨハネ 1:14. 2:21. I テモテ 3:15-16. エペソ 2:22. 啓 21:2-3, 22）における神に対する享受に導き入れます。わたしたちは神の家に、わたしたちの命の日の限り（現在の時代、来たるべき時代、永遠において）住みます。
2. わたしたちが命の日の限り、神の家に住むことを追い求める必要があるのは以下の事のためです——詩 27:4-8 :
 - a. 神の麗しさ（愛らしさ、楽しさ、喜ばしさ）を見つめるため——4 節前半, 8 節. II コリント 3:18。
 - b. 神に尋ね求めて、わたしたちの日常生活のすべての事を神に確かめるため——詩 27:4 後半. 参照、ヨシュア 9:14。
 - c. 神の避難所にかくまわれ、わたしたち自身を神の天幕の隠れ場に隠すため——詩 27:5 前半. 31:20。
 - d. 神によって上げられ、頭が高く持ち上げられるようにするため——27:5 後半-6 前半。
 - e. 喜びの叫びの犠牲をささげ、神の栄光のために神に向かって歌い、詩を歌うため——6 節後半. ヘブル 13:15. ピリピ 2:11。

わたしたちの安息としてのキリストに 来て、(くびき—御父のみこころ)を負い、安息を得る

III. 主イエスはわたしたちの安息です——マタイ 11:28-30 :

*安息得るようにとの召し

A. 「すべて労苦し重荷を負っている者は、わたしに来なさい。そうすれば、わたしはあなたがたに安息を与える」——28 節 :

1. ここで述べられている労苦は、律法の戒めや宗教的規定を守ろうと努力する労苦を指しているだけでなく、何かの働きに成功しようとして奮闘する労苦のことも指しています。このように労苦する人はだれでも、常に重荷を負っています。
2. 安息は、律法や宗教あるいは働きや責任の労苦と重荷から解放されることを指しているだけでなく、完全な平安と全き満足も指しています。

*安息を得る道(方法)——主のくびきを負うことを学ぶ

B. 「わたしは心の柔和なへりくだった者であるから、わたしのくびきを負い、わたしから学びなさい。そうすれば、あなたがたは魂に安息を見いだす。なぜなら、わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」——29-30 節 :

1. 主のくびきを負うとは、御父のみこころを取ることです。それは、何かの働きによって規制されたり制御されたりすることではなく、御父のみこころによって拘束されることです。
2. 主はそのような生活をし、御父のみこころ以外の何も顧慮しませんでした（ヨハネ 4:34. 5:30. 6:38）。彼はご自身を、完全に御父のみこころに服従させました（マタイ 26:39, 42）。ですから、主はご自身から学ぶようにとわたしたちに求めているのです。
3. 彼から学ぶとは、外側で彼を模倣することではなく、主のくびき（神のみこころ）を負うことによって、わたしたちの霊の中で主を複写することです。神のみこころは、わたしたちのくびきとならなければなりません。わたしたちは自分の首をこのくびきの中へと入れて、彼の複製

とならなければなりません—— I ペテロ 2:21。

4. 主のくびきを負い、彼から学ぶことによってわたしたちが見いだす安息は、わたしたちの魂のためです。それは性質において内側の安息であり、何か外側のものだけではありません。
5. 主のくびきは御父のみこころであり、彼の荷は御父のみこころを遂行する働きです。そのようなくびきは負いやすく（良い、親切な、柔和な、温和な、楽しいを示し、困難な、過酷な、辛い、苦しいの反対です）、またそのような荷は軽く、重くはありません。

種まく者としてのキリスト、まかれた種としてのキリスト——種を撒く者のビジョンと種の成長と建造

IV. 種まく者は主イエスのすばらしいパースンであり、まかれた種も三一の神の具体化としての主ご自身です——マタイ 13:3, 18-23 :

種まく者のビジョンを見で、聞く必要があります

*「キリストがご自身を命の種として人の中へとまく」というこのビジョンは主の回復の心臓部であり、主の心の願いと関係があります

- A. わたしたちは種まく者であるキリストが、ご自身を命の種として人の中へとまくというビジョンを見る必要があります。このビジョンは主の回復の心臓部です。なぜなら、それは主の心の願いと関係があるからです。

*神がわたしたちの命となって、わたしたちを彼の表現とならせます

- B. 彼が願っているのは、彼が彼の選ばれた民であるわたしたちの中へと入って来て、ミングリングの方法でわたしたちの命となって、ご自身をわたしたちの要素とならせ、わたしたちを彼の表現とならせるということです。

*再生され、神の命を持っているわたしたち信者は、神の耕された地です

- C. キリストの中で再生され、神の命を持っている信者たちは、神の耕された地であり、神の新創造における農場です。それはキリストを成長させて、神の建造のための尊い材料が生み出されるためです—— I コリント 3:9, 12 前半。

*この地まかれた種(わたしたちの内側の命の神聖な種)を成長させることが建造です。

- D. 聖書によれば、成長は建造と等しいのです。これが起こるのは、わたしたちの内側の命の神聖な種が成長することによります—— I ヨハネ 3:9. コロサイ 2:19. エペソ 4:15-16。

マタイ 13 章の種まく者の比喻は、エペソ 3:17 の啓示を説明します

- E. エペソ第 3 章 17 節が啓示しているのは、三一の神がわたしたちの中へと入って来ており、要素としてのご自身をもって、また材料としてのわたしたちからのものをもって建造の働きを行なうということです。これはマタイ第 13 章の種まく者のたとえによって例証されています：

*種の成長——キリストは種、わたしたちは土壌、養分が成長させる

1. 主は、土壌である人の心の中へとご自身を命の種としてまきます。それは、彼が成長して、彼らの中で生き、彼らの内側から表現されるためです——3 節。 *
2. 種は土壌の中へとまかれて、土壌の養分をもって成長します。その結果、生み出されるものは、種と土壌の両方からの要素の構成物です——23 節。
3. わたしたちの内側には、神によって創造された養分があります。それは神がわたしたちの中へと入って来てわたしたちの中で成長するための備えです。神聖な種のために、神は人の養分を持つ人の霊を造り、土壌としての人の心も造りました—— I ペテロ 3:4。
4. わたしたちが命において成長する速度は、神聖な種にかかっているのではなく、どれだけ多くの養分をわたしたちがこの種に与えるかにかかっています。わたしたちが養分を供給すればするほど、種はますます速く成長し、ますます繁茂します——マタイ 5:3, 8。

内在的な建造のための養分の供給

内なる人へと増強され、

わたしたちの霊に注意を払い、霊を活用し(養分の供給)、

主に完全に開き、彼と協力し、わたしたちの心を徹底的に対処する(土壌の状況、状態)

5. もしわたしたちが自分の魂の中に、天然の人の中にとどまるなら、神聖な種の成長のための養分は何もありません。しかし、わたしたちが内なる人の中へと増強されるなら、またわたしたちの霊に注意を払い、わたしたちの霊を活用するなら、養分が供給されて、キリストがわたしたちの心の中にご自身のホームを造ります——エペソ 3:16-17. ローマ 8:6. I テモテ 4:7. 参照、ユダ 19 節。
6. もしわたしたちが、命の種としての主にわたしたちの内側で成長していただき、わたしたちの

満ち満ちた享受となっていたきたいのであれば、わたしたちは主に完全に開き、主と協力して、わたしたちの心を徹底的に対処しなければなりません——マタイ 13:3-9, 18-23。

7. 一方で、神は要素としてのご自身をもってわたしたちを增強します。もう一方で、わたしたちは養分を提供します。これら二つの事を通して、キリストにある神は、わたしたちの全存在の中で、彼の内在的な建造、すなわち彼のホームの建造を遂行します。

まとめ

いやしを経験する	彼に触れ、彼が注入される
牧養を経験する	必要のある人を牧養することを学ぶ
安息を享受する	御父のみこころを受け入れ、実行する
建造を経験する	内在的建造のために養分を供給する